

5. 英語教育実践セミナー

学習者とともに歩む指導と評価のサイクル ～教室内の多様性への対応～

第2日目 6月23日 12:10～13:40 第1室

コーディネータ：巽 徹（岐阜大学）

講師：山川 真弘（岐阜県立恵那南高校）

文部科学省（2021:1）では、変化の激しい社会の中で、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る必要性を述べています。また、高等学校における学習活動を、高校生を中心に据え、学習者の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限伸長するためのものへと転換することが急務と指摘しています（同：26）。実際の教室では、多様な入学動機や進路希望、学習経験、言語環境、個々の能力・適正、興味・関心や特別な支援の必要性等、様々な背景をもつ学習者が一斉に学習をしています。この教室内の「多様性への対応」が、外国語科の目標や個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、個々の可能性や能力を最大限伸ばす指導の実現には必要不可欠であると考えています。

本実践では、学期ごとに教科書の題材に関連したパフォーマンス課題をプロジェクト学習的に位置づけ、そこで必要となる知識・技能と思考力・判断力・表現力を、教科書本文を活用した学習活動を通して育成していきます。そして、学期末の評価結果をその後の学習と指導者の授業改善のためのフィードバックとして活用するという、指導と評価のサイクルの確立に努めました。

本セミナーでは、発表者が農業科と総合学科の公立高校で実践してきた教室内の多様性への対応例と「学習者とともに歩む指導と評価のサイクル」の全体像を発表します。一部ワークショップ形式を取り入れ、昨年度実施の学習者のパフォーマンス動画の視聴と、前期の指導と評価を踏まえ、授業改善を図った後期の授業内容を中心に扱う予定です。多くの先生方のご参加と様々な視点からのフィードバックをいただくと幸いです。

文部科学省（2021）学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料